

スライド	テキスト
-	<p>皆さんこんにちは。</p> <p>今日はですね、SDGsと子ども食堂講座ということでお話しの方をさせていただきたいと思います。画面の共有の方もします</p>
1	<p>それでは改めまして、私は東洋大学の関屋光泰と申します。</p> <p>もし詳しく知りたい方は名前の下に出ている research map、研究者のサイトですけれどもそちらの方を見ていただいたり、また後ほどでいろんな事例について活動についてご紹介します。</p> <p>最新のものは research map のサイトを見ていただいても大丈夫ですし、Twitter のほうで紹介をしていきますので、ぜひ私の名前で Twitter の検索していただければ出てきますし、またこのアドレスで見いただければ幸いです。</p> <p>今日は子ども食堂と SDGs ということで、しばらくの時間、お話をしていきます。</p>
2	<p>簡単な自己紹介です。今日はこのお話がメインではありませんけれども、後ほどですね、もし関心がある方はゆっくり画面を見ていただければと思います。</p> <p>もともと生活困窮者の支援が専門です。</p> <p>簡易宿泊所の町、ドヤ街というのを皆さん聞いたことがありますか。私は横浜のドヤ街、「寿町」というところで、精神科のクリニックに併設して立ち上げた精神科のデイケアというところで、生活保護を受けている方・精神疾患を持っている方のグループワークを行ってまいりました。そういったものが専門です。</p> <p>その他、子ども食堂については、全国調査や学生が主体の子ども食堂を作ろうという講座、またその全国ネットワークを今まで立ち上げてきました。</p> <p>後ほど出てきますけれども、新型コロナウイルスの影響というものは、子ども食堂の方にも出ていまして、多くの子ども食堂はフードパントリーという食材食料品をお渡しする活動というところに切り替えているんですけども、そちらの方も立ち上げて参加をしてきました。</p>
3	<p>最初に今日頂いたタイトルが子ども食堂ということで、私の調査に基づいてこの図を作りました。ここに書いてありますように共通点は「食堂」というだけあって、食事の提供・食事の支援が行われています。</p> <p>ただ、食堂だけではありません。</p> <p>食堂は中心ではあるんですけども、いろんな活動と結びつけていく接点として機能しています。</p> <p>その他、いろんな活動に広がって、各子ども食堂の活動が行われてきました。</p> <p>例えば、学習の支援・宿題のサポートということを行っているところもありますし、読書を勧めようっていうところもありますし、また、今の時代の子どものこれからというところを見据えてパソコン・タブレットなどを活用したところもあります。</p> <p>その他社会体験ということで、後に出てきますけれども、子どもの貧困というのは、経済的な困窮だけではなくて経験の格差というものがあるんですね。</p> <p>例えば、生活にゆとりがあればキャンプであるとか、いろんな職業の人の話を聞く、いろんな所に見学に行く・旅行に行くということが出来ますけれども、経済的な困窮というのはそれらの機会に格差が生じてしまう。</p> <p>そういったことを埋めよう、格差を埋めようということで、社会体験いろんなキャリアの方のお話を聞くということに取り組んでいる子ども食堂も埼玉県内にあります。</p> <p>それから個別の支援ということで、食育、経済的困窮の家庭の中にはなかなか生活習慣が身につかないということもあって、それらを、あまり多くはありませんが、訪問によって家族を支援しているというところがあります。</p>

	<p>また、スポーツ・レクレーション、これらも経験の格差ということをお話しましたが、格差が生じてしまいやすい分野でありますし、健康づくりという側面もあります。</p> <p>また、自由な遊びの場・季節の行事を行う場、その中で伝統文化を伝えていきたい。</p> <p>そして最後の自然体験、子どもの支援、児童福祉のなかで日本の児童福祉が大事にしてきたのが、自然との触れ合い、自然環境の中での子どもの育ちを支えるということですね。</p> <p>それらの伝統を直接受け継いでいるということではないんですけれども、自然の体験農園作りに取り組んでいる子ども食堂もあります。</p> <p>特徴はこれらを双方向参加型、出来る限り運営する大人が押し付けるものではなくて、子どもたちがやりたいことを中心につながりをつなげていく、そういった活動として子どもの居場所づくりとして子ども食堂ってものがあるわけなんです。</p> <p>ただ、子どもの居場所というのは、子ども食堂だけではありません。</p> <p>学習支援ということで特に取り組んでいるところもありますし、子ども食堂の先輩として冒険遊び場づくり、公園で遊びを作っていくといった活動もあります。</p>
4	<p>これらの子ども食堂はいろいろな目的を掲げているところがあります。</p> <p>理念を掲げるところがあります。</p> <p>活動も色々なんですけど理念も色々なんです。</p> <p>多世代交流のつながりを構築していきたい、特に子どもの貧困家庭を支えていきたいというところ、子育てを支えていきたい、子どもの成長を地域として支えたい、そういった色々なところがあるわけなんですけども、共通してるのが真ん中にあるように社会的孤立を解消していこう、つながりを構築していこうというのが子ども食堂だったんですね。</p>
5	<p>また、子ども食堂は、いろんな論者の方がいて何人かの方がおっしゃっていますけども、特徴はこれまでの地域福祉活動・ボランティア活動と違って、普通の人たちが担っていることが多いんだ、それが強みなんだとよく言われています。</p> <p>普通の人たちとは、普通って何だってことになりますけども、例えば、いろんな子ども食堂で目立っていたのが退職したシニア世代、また子育て中、それから子育て経験者、それから高校生・大学生、そういったところが地縁、例えばその町・中学校区くらいのところで結びついて行なっているところが多いわけなんです。</p> <p>では従来のボランティア活動っていうのは右にありますけど、社会福祉協議会・民生委員といったところと繋がったボランティアの方も子ども食堂に協力している。</p> <p>こういった従来の社会福祉側と新たな担い手というところを地域の方々が繋いでいる例もあります。</p> <p>民生委員の方が立ち上げた子ども食堂というの、埼玉県内全国を見てもいろんな所にあります。民生委員、児童委員としての活動の在り方だと思います。</p> <p>課題としては地域によってニーズもいろいろです。</p> <p>経済的に困窮してる世帯が目立つという地域もあれば、子どもが自由に遊べる場所がない、居場所がない、そんな地域もあるでしょう。</p> <p>ニーズに合わせたサポートの内容が必要だと思います。</p> <p>また、新たに子ども食堂のボランティアをやってみたい、加わりやすい仕組み。</p> <p>また、いろんな子ども食堂さんを訪問して聞くのが、例えば不登校の子どもがいる・生活に困ったご家庭の子どもがいるという時に、学校と連携するならば教育であるとか毎日通う学校ですから、実際の支援につなげていくことができるわけなんだけれども、なかなか繋がりがうまくいかない地域もあるんだ。</p>

	<p>その間をつないでいくのが、スクールソーシャルワーカー・スクールカウンセラーではないのか。また、子ども食堂を継続していくには、後で簡単に説明しますが、簡単ではないところがあるんです。</p> <p>例えば人材、人ですね。お金は助成金で何とかあったとしても、人というところが難しく、また人が集まれば人間関係の難しさというものもある。そういったところの課題が、私の調査の中でもみえてきました。</p>
6	<p>あと、子ども食堂は厚生労働省の通知では、子どもの食の支援というだけではなくて、高齢者・障害者の交流の拠点に発展する可能性がある、地域共生社会の実現に向けての役割を果たすことを期待しているといったものが2018年に出ています。</p> <p>それから、今の子ども食堂ブームの火付け役、スターターとしては2012年の豊島子ども食堂わくわくネットワーク、それから気まぐれ八百屋だんだん、大田区で、近藤さんという方が始めましたけども、始まりのものとして重要だと言えます。</p> <p>ただ、困窮している子どもがいる、食に困っている子どもがいる、それから一人ではなかなか宿題ができない学校に通うことが難しい子どもがいる。</p> <p>子どもたちを食事を通して支えようという活動は、児童福祉であるとか地域福祉の中でずっと続けられてきた、まだ子ども食堂というタイトルがついていなかっただけなんです。</p> <p>例えば、私の元にある記録のところで確認すると73年にすでに横浜市中区の簡易宿泊所の街の中で子ども食堂と名乗った活動が行われていて、夏休み中の食生活それから宿題といったところを支えようということで活動を始めていたわけなんです。</p> <p>何が言いたいのかというと、子どもが困ったという時に子ども食堂とも言える形の活動が現れてくるのだろう、本人たちは意識していなくても、ある意味繰り返しというところがあると思います。それから地域のニーズに合わせて変わっていくわけですから、それに合わせて活動も変わっていく必要があるんじゃないか。</p> <p>だけれども、変わってはいけないのが子ども中心、子どもファーストの姿勢。</p> <p>それは変わってはいけない。</p> <p>そういったことを、歴史を振り返ると思いましたので、紹介しました。</p>
7	<p>続いてですね、やはり新型コロナの下で多くの子ども食堂も変わってしまった。</p> <p>こちら辺は、むすびえの何度かの調査でも明らかにされています。</p> <p>子ども食堂、従来の形で感染予防徹底しながら続けているところも埼玉県内でもあると思いますし、私も仲良くしている子ども食堂、長野県でもそのようなところはあります。</p> <p>多くの子ども食堂はフードパントリーと言いますが、無料で食料品に困っている方に食料品・生活必需品・衣料品をお渡しする活動に転換していることが多いです。</p> <p>そのほか、子ども食堂でお弁当の配布、お渡しということに転換しているところ、子どもの宅食・配達を行っているところ、これは子育て世帯にとって助かると思います。</p> <p>小さなお子様を抱えていると、お弁当をお渡ししているというのも受け取りに行くのも大変だというときに、配布しに来てくれれば助かる、また、配達によって安否確認にもなる優れた活動であると考えますが、これも広がっています。</p> <p>それから学習支援、対面ですと感染リスクというものも生じてしまう可能性がありますが、オンラインに切り替えて、特に休校期間、コロナによる休校期間の子どもの学習を支えようという活動も各地で行われ大学生などが始めた活動というものもあります。</p> <p>また、この新型コロナの影響を受けているのは子どもも大人も失業したりというところがあります。</p>

	<p>それから家庭も学生たちも同じなんですね。</p> <p>飲食の領域ですね、アルバイトしてきたんだけどアルバイトが減ってしまった、収入が減っている。</p> <p>また、親御さんの生活も苦しくなったということで、いろんな大学で学生の困窮しているところがあります。大学が取り組んでるところもあります。</p> <p>筑波大学などいろんな物資を配布している、お米を配布している、そういったところもありますし、学食は全部 100 円ってということで学生の生活を支援しようという大学もあります、地域の団体もありますね。</p> <p>そのほか、子ども食堂・フードパントリーに併せて生活相談を行う、電話・LINE 活用してですね。ただ残念なのが、訪問してのほかに SNS を利用しての子ども食堂の調査を継続していますが、残念ながら活動休止しているみたいだ、記事の更新がなされていないといった子ども食堂も少なくない。</p> <p>なかなか新型コロナのもとで、集まるつながりを作るということで、子ども食堂はこの 2012 年以降続けてきたわけなんだけど、それが感染リスクに繋がってしまうというジレンマ、なかなか厳しい。</p> <p>私も研究者でもありますけども、実際の活動を運営してきた立場としては、苦しさを感じています。ただ、フードパントリーなどの会場でこういった声も聞くことが多いです。</p> <p>プライバシー個人情報ですからシンプルなものに変えていますけどもね、お米の配布が助かるんだ、それからパスタなど乾麺のようなものもありませんか、ということで必要だという声を聞くことがあります。</p> <p>これは逆に言うと、生活に困っている子育て家庭が増えている。</p> <p>これは私が実際に赴いた現場だけではなくて、年末年始にいろんなところの民間団体が生活困窮者支援の相談などを行いました、そういったなかでも現役世代・若い世代・女性子育て世帯の支援を求める方が目立っているところで、今の貧困の特徴だと言えます。</p> <p>もちろんおかしになるものって物が欲しい、お子さんのおやつには駄菓子が人気です。もちろんまた乳児向けの洋服など、そういった配布のニーズもあります。</p> <p>また、フードパントリーというカタカナ、子ども食堂というものは幸いなことに色々な人たちに伝わって子ども食堂と言うと、ああいった活動なんだなって事が伝わるようになってきましたが、フードパントリーはまだまだこれから広がりつつある言葉なので、ご高齢のかたとかはわからない、お金いるんですかと言われてしまったことがあります。</p> <p>乳幼児子育て世帯は配布しますよ、渡しますよ、と言っても受け取りに来ることは難しいです。配達できますよ、と言った時にたくさんの配達してくださいというご要望を受けた経験もあります。</p> <p>なかなかですね、先ほど子育て世帯の貧困ということを行いました、そういった地域のニーズを知ることができるのが氷山の一角であって、関連機関との連携が必要だろうと思われま。</p> <p>また、子育て世帯の困窮・女性の困窮、なんでかというところと外食・観光・非正規雇用などで働く方が多い、女性・シングルマザーにとっては生活に直撃、打撃がある。</p> <p>再就職というの、あちこちの会社が打撃を受けていますから難しいというところがあります。</p>
8	<p>それではここからですね、SDGs と子ども食堂ということで、しばらくの時間、子ども食堂というところと SDGs というところを繋げてお話しをしていきたいと思えます。</p> <p>SDGs、皆さん聞いたことありますか。</p> <p>2015 年 9 月の国連サミットで持続可能な開発のための 2030 年アジェンダに掲げられた 17 の持続</p>

	<p>可能な開発目標。2016年1月に正式に発効したわけですね。</p> <p>17個の目標があります。</p> <p>みなさんどこかでこれらを見たことがあるかとは思いますが、ここから子ども食堂、子どもの居場所、フードパントリーと関係が深いと思われるものを少し説明していきたいと思います。</p>
9	<p>持続可能な開発の3つの側面ということで、こういうことを国連は謳っています。</p> <p>持続可能な開発、将来の世代、確かにここは子ども食堂とぴったり合いますね。</p> <p>子ども食堂、今の子どもたちを支えるわけなんですけれども、子どもの未来のためでもある。それはSDGsの理念と重なります。</p> <p>それから経済成長。</p> <p>子どもの貧困というのは子どもだけが貧困というわけではなくて、家庭が貧困、お金・経済の部分でも大切です。</p> <p>そして社会的包摂、カタカナで、ソーシャルインクルージョンといいます。</p> <p>なにかというと社会的排除。</p> <p>例えば、お金がないから、多数派の民族ではないからといって排除する世の中ではなくて、踏み込んでいく、支えあう社会・つながっている社会、そういったところを目指していく。</p> <p>これも子ども食堂がずっと目指してきたところと重なります。</p> <p>環境保護。</p> <p>食べるということを持続していくには、環境のことも考えていく必要があります。</p> <p>子ども食堂の中で食育などのところで繋がっていく分野だと思いますね。</p>
10	<p>それでは関連あるところ、「貧困をなくそう」、あらゆる形態の貧困に終止符を打つということですね。</p> <p>SDGsのなかで謳われていますね。</p> <p>5人に1人が世界で見るとなれば1日1.25ドル未満で暮らしている、そういったことを受けて貧困をなくそうとものが掲げられているわけなんです。</p> <p>また、後で日本についても言いますが、左側のこれは私なりに考えてみました。</p> <p>経済的な困窮というのは、生活全般それから健康といったところに影響を及ぼします。</p> <p>いろんな問題が雪玉のように経済的困窮をきっかけとして、どんどんどんどん大きくなって深刻になってしまうわけですね。</p> <p>加えて今回の新型コロナによる貧困の深刻なところは、学生・若者が収入が減った、アルバイトがなくなった、生活困窮ってものが広がっている。</p> <p>だけれども、これは希望が持てるのは各地域でこういった学生の声・要望に応じていろんな形の支援活動が広がりつつあります。また、先ほどソーシャルインクルージョンと社会的排除がありました。</p> <p>社会的排除の研究の中では若者が安定した雇用から排除されていくんだということをして指摘しているものもあるんですね。</p> <p>新型コロナの影響で大丈夫でしょうか。心配なところでもあります。</p> <p>私たち民間の立場でできることは、子ども食堂・フードパントリーってものもこの貧困ってところで最初の支援の窓口、誰かに困っていることを伝える窓口になってるところですね。</p> <p>その役割を地域で果たして、行政などと連携しながら地域で支え合いの役割を果たしていくところが必要だと思います。</p> <p>また、これを見てくださった子ども食堂の方にお問い合わせしたいのが、子どもの対象ですね、少し引き上げていただけないでしょうか。</p>

	<p>学生・若者と言った、新型コロナで新たに貧困という渦に巻き込まれつつある、子どもたち・学生・若者といったところを対象としていただければよいと思います。</p>
11	<p>日本においては7人に1人の子どもが貧困と言われている。よくグラフで説明されている。ただ、言えるのが経済的困窮というのだけが問題ではなくて、お金がないから病院にかかりづらいという健康にダメージを受けたり、また、お金がないということ、家族関係であるとか社会関係というところがうまくいかない、うまくいかないから再就職とかも難しいと言った悪循環に陥ることがあります。</p> <p>多問題家族という言葉が社会福祉の中にあるわけなんですけども、そういった状態になってしまう貧困世帯も少なくないということを覚えておいてください。</p>
12	<p>続けて、「飢餓をゼロに」。日本で飢餓というのはもう終わった問題じゃないのか、確かに私たちの見えるところでは飢餓はないと思われましょけれども、ただ栄養であるとかそういったところも考えなくてはならないと思いますね。</p> <p>これは私の専門である社会福祉ではなくて、公衆衛生の領域の研究・調査において、こう言いたいことを言っている研究者の方もいるのですが、子どもの貧困というのは栄養も損なわれている、そうすると成長という点も当然影響を受けますが、大人になった際、中高年の健康リスクにも繋がるんだという研究もあります。</p> <p>だから飢餓というのは、なんでも満腹になればよいと言うことではなくて、栄養というものを気をつけなければ、今の子どもたちの栄養を今ここで支えなければ、その子どもたちが中高年になったときに生活習慣病、もっと深刻な病気が待っているかもしれない、そんな未来を守る、それが食事の支援の子ども食堂・フードパントリーの使命の1つと考えられます。</p> <p>それから食生活の支援と言うことで、これは社会福祉・生活困窮者生活困窮者支援においても児童福祉においても、実は中心の部分なんです。</p> <p>子ども食堂、私たちの地域福祉活動の中でも考えていかなければいけないところですね。</p> <p>大事なことは、何を食べるのか。栄養・健康に良いもの。</p> <p>お金にゆとりがなければ、つついなんとかが今満腹になれば良い。</p> <p>それから経済的困窮の影響は後にも出てくる言葉ですが、時間貧困、子どもや大人からですね、時間ってものを奪っていく。</p> <p>調理する時間もなくなる、菓子パンなどだけになってしまう、そんな食生活支援を考える時に何を食べているのかってことを考えなければいけない。</p> <p>それから誰と食べていますか。</p> <p>子どもの孤食という問題がありますし、高齢者の孤食というのも問題です。</p> <p>社会的孤立に繋がってしてしまうわけなんです。</p> <p>もちろん感染予防も考えなければいけません、いつでもそれからずっと続くとすればこんなに孤立というものはないと思います。</p> <p>それからどのように食べているのか。落ち着いて、そして温かく誰かがですね、心を込めて作ったものを食べていますか。</p> <p>それは生活の質に関わるわけですね。</p> <p>飢餓という言葉、日本に関係がないと思われるかもしれませんが、栄養それから食生活の質ということで考えなければいけないテーマ、それは子ども食堂・子どもの居場所活動に繋がってくる大事なテーマであると言えますね。</p> <p>そして食の持続可能性、SDGsに関連して考えるならば、今日の食事だけではなくて、未来の食事につなげていかなければいけない、安全なものを作らなければいけない。そうすると農業の担い手</p>

	<p>として自然環境と調和した農業、そういうところと農業と食卓をつなぐ食育ですね、そういったところも子ども食堂の課題になってくるだろうと思われまます。</p>
13	<p>そしてこちらに書いてありますけれども、さきほど経済的な、それから食べるものがないということは色々な問題に繋がっていくのですよ、ということを行いました、これは子どもの未来アクションの資料を利用して頂いていますけれども、経済的困窮が衣食住不安、また自己評価・自尊感情を失っていく、新たなチャレンジができなくなっていく。</p> <p>それから教育格差というものも生んでいきます。</p> <p>そして文化的な資源の不足と言うことで、適切に自分の適性というものとあわせて進路を選択していくときに、その選択肢の幅が狭くなってしまふ、そうすると若者の貧困、大人の貧困、それはその次の世代の貧困に連鎖をしていってしまう訳です。</p> <p>子どもの貧困というところだけをみていっても、経済的に困ったというだけではなくて、家出などといったかたちで顕在化することもあります。</p> <p>家族問題につながることもあります。</p> <p>何なのかというと、皆さんは子ども時代の休日・日曜日ってものは楽しかったですか。</p> <p>楽しければ幸せだった子ども時代なんですけれども、子どもも大人も貧困のなかに置かれている家庭においては、子どもにとって休日がストレスになる。</p> <p>なんでかって言うと、親はもう疲れきって子どもに当たってしまうこともある。</p> <p>そうすると、休日に子どもがストレスを溜めて月曜日に学校に戻ってくることになることにもつながってしまうわけです。</p> <p>これは親だけの自己責任とは考えられないと思いますね。</p> <p>私たち社会の皆の問題として未来を守るために考えなければいけないと思います。</p>
14	<p>続けて、「すべての人に健康と福祉を」ということで、あらゆる年齢のすべての人々に健康的な生活を確保するという事です。</p> <p>先ほども言いましたが、食が健康の基盤であるなら、それを地域で支えていきたいというところがありますね。</p> <p>また、健康というのは体の健康だけではなくて、心の健康というのがあります。</p> <p>困った時に誰にも相談できないということでは、言ってみればですね、やかんに全くふたをして火にかけてるのと同じであって、いつか吹き出してしまうわけなんです。</p> <p>やがて専門的な機関につないでいくにしても、最初に困っているんだってことを言える場所を作っていく、それが子ども食堂であったり、フードパントリーであったり、居場所活動ということで、最初に受け止める窓口ってものを作っていく必要があると思います。</p> <p>子どもの健康と福祉という時のことを考えた時に、どうしても経済的困窮、また失業が子どもの虐待に繋がってしまうのではないかという恐れがあるわけなんですけれども、その予防を果たしていく必要がありますね。</p> <p>新型コロナの下での健康の課題と書いてありますけれども、ステイホームといいます。</p> <p>ホームが安定してる方は良いかもしれません。</p> <p>しかし先ほど言ったように、全ての子ども全ての人にとって安定したホームばかりではない、健康を損ないかねないところがあるわけです。</p> <p>そのなかです、支えていく必要があるだろうと思います。</p> <p>加えて、健康を支える福祉というのは、専門職や福祉施設・行政機関だけが支えてるのではなくて、自助グループ・セルフヘルプグループと言いますが、依存症の方などが支え合うグループというものがあって、依存症の方が健康維持していくという側面があります。</p>

	<p>新型コロナの下で社会の目が厳しくなり、なんだあの集まりはということと言われてしまう、言われてしまう恐れというところで集まらない。</p> <p>そういった問題も報道や、また関係者の方から聞くことがあります。</p> <p>そんな居場所活動、健康を支えるという意味もある居場所活動の困難というものをどうしていくのかってところが、私たち社会の課題と言えます。</p>
15	<p>健康と言いましたが、貧困に重複した問題と書いてありますけども、ここに書いてあるグラフは病院の受診を控えた経験ということで、困窮層の20%にそういう経験ってものがある。</p> <p>人間の健康、どんな暮らしをしてきたかというのは、実は歯を見ればわかるんですね。</p> <p>私も困窮者支援にもう25年以上関わってきましたけども、歯を見れば分かるところがあります。</p> <p>虫歯の数というところでも格差が生じてしまう、これは子どもにとっては健康という面で深刻な影響を与えてしまう。</p> <p>なので、経済的格差が健康格差につながってしまう、命は平等のはずなのにというところがあります。</p>
16	<p>続けてです、目標4「質の高い教育をみんなに」。包摂的かつ公平で質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進していくということで、教育の平等、それは当然なことだともうかもしれません。</p> <p>ただ、生活困窮という枠に入った人だけが平等ということを考えなくてはならないかというところではないと思います。</p> <p>生活困窮まではいかなくても、実際、子ども食堂の現場でこういった声を聞くことが多いんですね。</p> <p>生活困窮というところまではいきませんが、塾にまで送り出すゆとりがないんです。</p> <p>そういったところの家庭の学習をどうやって支えていくのかというところがありますね、それから今の学校、小学校の宿題が多い。</p> <p>家庭が教育の負担をしなくてはならない、負担感を感じているご家庭も多いと思います。</p> <p>そろそろ教育の課題として、私は教育専門家、小学校・中学校の教育の専門ではありませんが、全員一律の宿題をそろそろ卒業して、個別化を考える時期ではないでしょうか。</p> <p>いずれにしても今の状態だと、生活困窮まではいかないがゆとりがないというボーダーラインの人たちが困っています。</p> <p>また、ハンディキャップというのは、どこかの線から学習の障害・発達障害と別れるわけではなくてグラデーションなんです。やっぱり別れるわけではないわけなんです。</p> <p>こういったお子様も同じであって、こういったところで学びづらさを支えてもらえるのか。そんなところにニーズがあります。</p> <p>これらは、地域・コミュニティといったところで支えあうこともできるのではないのでしょうか。</p> <p>なので、教育の格差・教育の平等というのは、目に見えるものだけではなく、また、やっぱりこの人たちが対象だということが見えやすいかといった見えにくいというところがあります。</p>
17	<p>ただ、目に見えるところは残酷であって、低所得ひとり親世帯の進学格差としてはこういったものがある。</p> <p>教育の平等というものを考えなくてはなりません。</p>
18	<p>続いて、ジェンダー平等の達成。</p> <p>すべての女性と女児のエンパワーメントということを書いてありますけれども、時間の貧困、もちろん女性だけの問題ではありませんが、働くことに低賃金だったら時間を取られてしまうところがありますね。</p> <p>そうすると、家庭・子育てというところに時間がかけられない。</p> <p>子育て支援ともども、考えなければいけません。</p>

	<p>新潟市においては高齢者の居場所の事業で、ある民間主体の事業である、実家の茶の間という事業があります。</p> <p>また、実家の茶の間は実際に現場に調査に行きましたけども、見えてきたのが高齢者の支え合いだけではなくて、多世代・子育て世帯なども必要に応じて支える、地域で支え合う仕組みが出来上がっていました。</p> <p>単に支えあおう、共助を行おうというスローガンだけではなくて、仕組みづくりが課題になってくると思います。</p>
19	<p>また、国内および国家間の不平等の是正。</p> <p>貧困、多問題の世代間連鎖で不平等が生じないように、私たちの活動ってものがあります。</p> <p>それから子どもたちも多様性がある。</p> <p>その多様性を認め合う居場所でありたいところがありますね。</p> <p>先ほども言いましたけども、新型コロナの下で居場所が困難に陥っているところもあります。</p> <p>そのなかです、新たな支えあい活動の構築・地域共生社会が課題になっていますね。</p>
20	<p>教育の格差といったところではこういったところがあります。</p>
21	<p>続けて目標の11「住み続けられるまちづくりを」ということで、ここに書いてありますけれども、今までお話ししてきたような支えあい活動を、ソーシャルインクルージョンを地域の中で続けていくわけなんですけれども、ただこの間、新しい取り組みというのも始まっています。</p> <p>例えば、年末年始に各地で行われたような生活相談会というのも行われていますけれども、フードパントリーなどにあわせて相談活動がLINEを活用して始まっている。</p> <p>そこには、今週などの1週間の食べるものにも困っているという深刻な相談を子育て世代から受けることもありますけれども、そういった新たな試み・取り組みが始まっています。</p> <p>まちなかで、まちづくりとして、まちなかでどうやって支えあっているのかというところの先進的な事例だと思いますね。</p> <p>あわせてイギリス・ヨーロッパというところで進んでいるもので、コミュニティフリッジというものがあるんですね。公共の冷蔵庫というもので。これを岡山などでは取り組みとして始めています。</p> <p>なにかというと、フリーの冷蔵庫、コミュニティのなかに作るんですね。</p> <p>例えば食品ロスの観点から食品が余ってしまうという人は、黙ってその冷蔵庫の中に寄付の食材を入れていくわけです。個人や企業などが。</p> <p>必要な方がそこにやってきて、必要なものを必要なだけ持っていくという活動です。</p> <p>これは寄付というものがなかなか表立って行うのはどうなのかということが多い日本において、寄付することもあまり知られず、必要な方は必要なものを遠慮なく気にせず持っていくことができる、そんな活動としてコミュニティフリッジが各地に広がって欲しいと思っています。</p> <p>また、サポート的なシェアハウスと書いてありますけれども、これは長野県の社会福祉協議会の事例ですけれども、格安でシェアハウスを提供しながら、長野県ですからシェアハウスに移って農業などを体験しながら、やがて仕事に慣れたならば、観光であるとかいろいろな仕事につなげていくことを支えていこう、他の機関と連携しながら進めていこう、と仮暮らしを支えるプロジェクトが始まっています。</p> <p>シェアハウスも空き家の活用なんですね。コミュニティフリッジも空き家が活用できる。</p> <p>そういった形でまちづくりの難題でもある空き家を人が支えあうために活用できる、そんな事例だと思いますね。</p>
22	<p>ただ、格差というところで、こういったものが現われているなかで、どうやってまちづくりを考えていくのか、具体的な仕組みが必要といえるわけでわけです。</p>

23	<p>具体的な仕組みだと言ってきましたが、それは埼玉県は先進地域ではありませんけども、行政・地縁団体・町内会、それから医療機関・福祉施設、そういったところの連携で進めていく。</p> <p>そのなかで一人ひとりが結びつく共助、寄り添う、そういったコミュニティを実現していければと思います。</p>
24	<p>先ほども言いましたけども、私が埼玉県のご協力のもと、いろんな企業と連携しながら、また、子ども食堂の関係者と協働しながら、子ども食堂の学生ボランティアスタートアップ講座を以前立ち上げて行ってきました。</p>
25	<p>子ども食堂、今後のフードパントリーの活動などを広げていくときの一つのヒントになるかと思ってご紹介しています。</p> <p>今の若い人たちというのはなかなか知ったとしても行動に移していくことに助っ人がいるわけですね。助ける仕組みが必要なんです。</p> <p>なので、オリエンテーションともいえる最初の説明を行って、フィールドワーク、現場を見に行く。また、単にですね、今できている所に参加して黙々と手伝うのではなくて、新たなアイデアを引き出していこうということで、ワークショップを行いました。</p> <p>そしてですね、高校生・大学生が自分たちの活動として立ち上げるということを支える講座を行ったんです。</p>
26	<p>それは、「みんなの食堂ふらっと」という形で実現しました。</p> <p>2020年1月18日に定期開催が始まり、9月にテスト開催を行ったわけなんですけども、先ほどのいろんな子ども食堂と同じく、子ども食堂っていう形態では新型コロナに対応していく時になかなか難しい。フードパントリーって形態をとっていて難しい局面ですね。</p>
27	<p>それから全国でも私、色々調査をしてきましたけども、これは「うえだでおけまる食堂」。</p> <p>これは各方面から注目されている上田市の取り組みです。</p> <p>高校生や協力する大学生、また、そのところを下支えしている大人たちで行っている食堂なんですけども、私も現地へお邪魔しましたけども、家庭的な雰囲気の中で、中学生以下の子どもたちの食事を支えたり、学習を支えることを行っている活動です。</p>
28	<p>また、大学生の子ども食堂というのは各地にありますけれども、ずっと続けていて規模が大きいものとして、この新潟青陵大学の「そらいろ子ども食堂」があります。</p>
29	<p>また、沖縄の子ども食堂の調査にも行きましたが、今まで日本の貧困というのは見えない貧困だと言われていましたが、平日ほぼ毎日開いてる子ども食堂に、私も見ましたけども、本当に子どもたちが行列を作っている。夕食を求めて行列を作っている、厳しい現実を目のあたりにしました。</p>
30	<p>単に経済的な困窮だけではなくて家族の問題というところもある。</p> <p>そういったなかで沖縄の子ども食堂は事業化をして、スクールソーシャルワーカーと連携をしながら、平日、ある意味ターゲットを絞って支援を行って、場合によっては子どもの食事、宿題、また入浴、そして送迎というところも一貫して支援を行っている、そういった特徴がありました。</p> <p>もしかしたら、新型コロナによって各地域の貧困、子育て世代の貧困が厳しくなってきたときに、この沖縄の子ども食堂のような支援というのが必要になってくるのかもしれない。</p>
31	<p>また、私の方で全国の子ども食堂を対象にウェブ調査を行いました。</p> <p>このなかで子ども食堂のストレス、運営の難しさを感じるという人たちが82.2%いました。</p> <p>子ども食堂内の人間関係であるとか、全国ですからいろんな行政があるわけで、埼玉県のようにサポーター的な行政だけではないわけであって、その関わりが難しいという声があったり、子ども食堂を継続して行こうと思ったら自分たちだけではなくて将来担っていくであろう後継者が必要なんだけどもない、自分がいなくなったら閉鎖してしまうんじゃないか。</p>

	<p>そんな声というのも目立ちました。</p>
32	<p>なかにはこの新型コロナになる前から、目立ちませんが閉鎖していた子ども食堂もあるわけで、そのなかには先ほど言ったようないろんな課題があったのだろうと言えるわけです。</p>
33	<p>新型コロナのもと、私も立ち上げに参加をしたり活動に参加をしてきましたが、フードパントリーというものにシフトをしてきました。</p>
34	<p>ただ、なかなか難しい点も見えてきます。</p> <p>先ほども言いましたが、よく質問を受けます。実際は子ども食堂ってどんな方が担っているのですか。</p> <p>いろんな方、民生委員であるとか福祉専門職の方もなかにはいますが、多くはですね、いろんなお仕事されてる方が自分たちの所で集まりを作って、SNS 等でも繋がって活動を行っているんですね。</p> <p>子どもを支えたいということで行っているわけなんです。</p> <p>ただ難しいのが、子どもが集まる・つながるということを大事にしてきましたが、それは感染リスクに繋がってしまう。</p> <p>そこにジレンマがある。</p> <p>フードパントリーで配布の食材をお渡しする活動になると、なかなか子どもたちと関わるってことから離れてしまうわけですね。</p> <p>特にイベントを行ってつながりを維持していく方法もありますけども、なかなか難しいという局面もあります。</p> <p>そうするとボランティアの方々にとっては、先ほどの調査はコロナ前ですけども、コロナの感染状況の中で、さらにストレスというものが増大しているのではないのかなと思われそうですね。</p> <p>調理が得意な方とかはですね、食料品の配布だけでは腕をふるうところがなくなってしまったんですね。</p> <p>そんな困難というものがある。</p>
35	<p>先ほど言ったように SDGs のところではありませんが、それをパートナーシップによってどうやって乗り越えていくのか、そんな局面に差し掛かっていると思います。</p> <p>続いてです。先ほどのところにもありましたけど、5月以降フードパントリーの活動で出会ったのが、差し迫った「困った」という SOS が LINE であるとか他の手段で伝えられることが多い。</p> <p>今、他の支援活動・他の地域の支援活動でも同様の声というものがあるわけですね。</p> <p>新型コロナのもと、現役世代の失業・生活困窮ってものが拡大してきたと思われそうです。</p> <p>今後、大人の方々が困ったということで相談であるとか、フードパントリーに来た時に考えられるのが、私、生活困窮者支援ということが本来専門なので分かるんですけども、なかなか男性というのはストレートに「困った」「助けて欲しい」ってことを言えないことがあるんですね。</p> <p>苛立ってしまったたり、大丈夫ですかって声をかけた時に放っておいてください、大丈夫なんですということを書いてしまったり、怒ってしまったたりということがあるわけなんです。</p> <p>なので、これから活動を始められる方、フードパントリーを始めてみようという方、仲間集めから始まると思いますが、困った人、つまりいろいろ受け取りに来たのに怒ってしまう人、そんな困った人は実は生活などに困っている人が多いんだということを感じておいて、できれば相談コーナーのようなものを作っていたらと思います。</p>
36	<p>それから、私、子ども食堂との関わりのなかで、高校生・大学生が中心の子ども食堂を作ろうということをやってきましたが、これも新型コロナの下で大変な困難に出会いました。</p> <p>なんでかというとはですね、例えば、いろんな大学が、学生のボランティア活動などを新型コロナ感</p>

	<p>染予防という観点から自粛をお願いしたいとかしたりしているなかで、そもそもボランティア活動に学生が出かけられないところがあります。</p> <p>それから実際にそういった声も届いていますけども、ボランティアに出かけるどころではなくて自分の生活っていうものが大変だ、そういった困窮する学生が増えていっているところがあります。また、いろんなご意見が社会の中でありませけれども、感染予防という観点からオンライン授業というものを行わざるを得ない。</p> <p>そうすると学生の内面・メンタルとしてはいろんなストレスが増大をしていったり、特に1年生は孤立を深めていくといったところがあります。</p> <p>そういった難しさというのがある。</p> <p>なので、学生はボランティアということで見られることが多かったんですが、なかには今のように経済的に困っている・アルバイトに困っている、また、メンタルというところで、なかなかオンラインのなかで難しさを感じているというところが変化だといえますね。</p> <p>ですので、これから新たな活動を作ってみたいな、活動の拡大を図りたいなという方、ぜひ今各地に学生の支援活動というものが広がっていますけども、そういったものを参考にしつつ、学生も対象にしていただけたら幸いです。</p>
37	<p>まとめということで、説明をしてきました。</p> <p>子ども食堂を作るということではなかなか新型コロナの下では、感染予防を徹底することで、感染予防策などを「むすびえさん」などがいろいろ発表などをしていますけれども、そういったものを参考にしつつ活動を作っていく必要があります。</p> <p>また、フードパントリーというの、食材をお渡しするだけではどうなのかなと思われる方、多いと思いますけども、食料品を手渡すだけではなくて、本当に支援を必要としている人とつながる仕組みなんです。</p> <p>緊急支援として本当に困っている方とつながる仕組みです。</p> <p>社会福祉のなかでそういった出向いていくかたちの支援のことをアウトリーチといいますけども、アウトリーチの手法としては優れたものだと言えます。わかりやすいからです。</p> <p>無料食料配布をやっていますよということは、わかりやすいメッセージなんです。</p> <p>ぜひ、そこでつながって、困っている方の声を聴いて、必要ならば民生委員の方、生活困窮者支援の窓口などつないで、ニーズに応じていただけたらと思います。</p> <p>ご提案ですけども、フードパントリー・子ども食堂、それだけでももちろん十分に有意義な活動なんですけれども、食の支援というものを接点に、いろんな支援制度などを紹介する。</p> <p>これをもって子どもの貧困、子どもの健康破壊といったところからもっていく居場所の活動として、より意義あるものになっていくのではないのかなと思います。</p> <p>また、相談と連携ということで、例えば、先ほど健康問題ということをお話ししましたが、みなさん、無料低額診療事業って聞いたことありますか。</p> <p>実際困窮してる方とお話をするとお金が心配です、健康保険も、健康保険料が払うことができませんということで諦めましょうかって声を聞くことありますけども、無料低額診療事業を行っている医療機関に相談するならば、ここに書いてありますように無料で診療を受けることも可能なんです。</p> <p>そういったものに繋げていくってことも可能になってくると思います。</p> <p>私たちの活動が子どもとコミュニティの未来を守るって言ったことで、今、SDGsということを中心にお話をしてきましたけども、いろんな側面があり、いろんな活動の進め方がありますけれども、この子どもとコミュニティの未来を守るってことは、共通すると思います。</p>

<p>各自の活動がさらに繋がっていくことができれば、そんなことを願っています。 以上です。</p>
